

全国青年ボランティアセンター ニュースNO4（宮城版） 5月3日

「明日も頑張りたい」「現状をもっと知らせたい」——亘理と岩沼でボランティア活動

5月2日は、朝9時に到着した大阪のメンバー14人と友達から青年ボランティアセンターを紹介して参加した大学生二人が加わり、宮城県亘理町と岩沼市の2隊に分かれてボランティア活動をしました。

○イチゴ農家のビニルハウス泥撤去——亘理町（宮城・大阪チーム）

宮城・大阪チームは、前日に民商から連絡があったイチゴ農家に津波で泥だらけになったビニルハウスの泥撤去をしにいきました。

いざ、作業を始めると、泥と土の境目がわからない状況で、スコップで泥をさらうととても重く、なかなか作業がすすみません。約20人がとりかかりましたが、イチゴのビニルハウス80列のうち3列しか片づけることができませんでした。この地域は450戸のイチゴ農家がありました。しかし、津波で20戸しかのこりませんでした。作業後、「今までイチゴを置いていた倉庫に住んでいる。イチゴのことしか考えてないけど、行政の手は入らない。住居にも床上浸水したけどなんの保証もない。この3～4月に一年分の収入が入ってくる時にこの津波被害だった」と依頼主の胸のうちのうちを聞きました。

ボランティアに参加したメンバーからは「テレビでは見ることはできない状況があり本当に大変だと実感した。泥撤去作業してほんまに長期的な支援がいると思った明日も頑張りたい」「今回、イチゴ農園のボランティアを経験して、全然人手が足りないなど実感した。大阪にいて考えるレベルをはるかに超えている。大阪に帰ってもっと人手がいることを知らせたい」など感想がよせられています。

○「うちもやってほしい」と近所の家からボランティアを依頼——岩沼（兵庫チーム）

岩沼には兵庫のメンバー11人がボランティア活動をしました。前日の聞き取りで「まわりの泥を片付けてほしい」という要望にこたえて泥撤去をしました。すると、隣の家の人から「うちもやってほしい」と声をかけられ、早速畑の泥だしをすることになりました。作業は1日では終わらず「明日もしてほしい」と言われています。同時に別部隊もつくり、聞き取り活動を行うと、イチゴ農家からビニルハウスの中の泥を運び出してほしいと言われ、引き受けることに。ここも、作業が終わらず、明日も継続する予定です。聞き取りでは他にも、家の補修について相談をうけ、あした、資料をもっていくことになりました。

ボランティア活動に参加したYくんは「昨日、訪問した時に頼まれたことを今日はやっただ。昨日は相手のおばあちゃんから『この人どんな人なんやろう』と警戒されている感じがしたけれど、今日、実際に自分たちが行動する中で、すごく信頼してくれているなと思いました。それが今日一番うれしかった」と感想をよせてくれています。

3日は亘理、岩沼、若林区、宮城野区の4つにわかれて行動します。